

肥育豚へのアセロラジュース粕飼料化の検討

畜産試験場

熊岡悟史、高橋敏方

アセロラジュース粕の飼料化を検討する目的で肥育豚への給与試験を実施した。供試豚はF1(LY、WY)でアセロラジュース粕0.25kg給与区、0.4kg給与区、対照区の3試験区各5頭、試験期間は60~110kgとした。調査項目は 発育成績：1日増体量・飼料要求率 枝肉成績：歩留まり、背脂肪厚、ロース断面積 肉質：理化学的検査、筋肉内粗脂肪割合、脂肪酸組成 食味検査。

結果は、発育成績、枝肉成績、肉質において各試験区間で有意な差はみられなかったが、肉色b値(黄色味)では、0.4kg給与区が若干高く、アセロラに含まれるカロテンの影響と推察した。食味検査では、全員がアセロラ給与区の豚肉を「おいしい」としたが0.25kg給与区と0.4kg給与区間に差はなかった。この結果は、肉質検査において、剪断力価は0.25kg給与区が最も低く、筋肉内脂肪割合は0.4kg給与区が最も高い傾向にあったことが要因と推察された。

畜種：豚、分類：畜産技術、キーワード：アセロラ